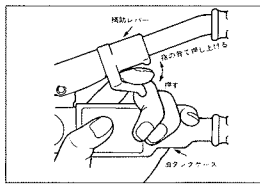
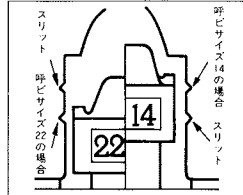
3 雌ダイス部に端子（またはスリーブ）をあてがいハンドル操作により雄ダイスを前進させ端子（またはスリーブ）を軽く保持します。

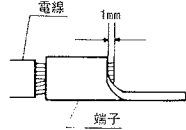
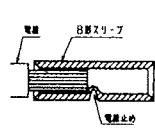
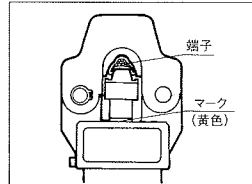
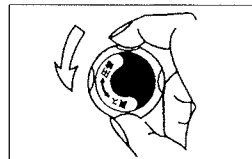
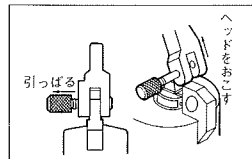
【要点】端子はろう付け部に、スリーブは中心の正しい位置に雄ダイスがあたるようにセットしてください。

便利です！

補助レバーの使用

端子（またはスリーブ）に雄ダイスが当たるまでは補助レバーにより片手でハンドル操作ができるようになっています。

スリットの活用

ヘッド内側に設けられたスリットは14㎜²と22㎜²の圧着の際に便利です。あらかじめスリットに雄ダイスの肩の位置を合わせておくことで、残りわずかなハンドル操作で端子を素早く保持できます。

4 電線の被覆を所定の長さに剥ぎ、端子（またはスリーブ）に挿入します。

《端子・Pスリーブ》芯線部が端子（またはスリーブ）から約1㎜出た状態にする。

《Bスリーブ》電線止めに芯線部が接触した状態にする。

5 ハンドル操作により加圧していきます。ハンドルに軽いショックがあり、ピストンマーク（黄色）が確認されれば圧着完了です。

6 戻し弁を左いっぱいに回して「戻ス」の状態にしてください。

7 スライドシャフトを抜いてヘッドを起こし圧着完了した電線と端子（またはスリーブ）をとりだしてください。

【要点】

■電線・端子（またはスリーブ）を挟まない空圧着は絶対にしないでください。工具破損につながります。

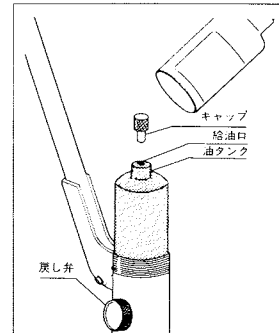
■過度の衝撃を与えないでください。正常に作動しなくなる恐れがあります。

■周囲温度は－10℃～40℃の範囲でご使用ください。

工具が－10℃以下になりますと、作動しなくなる場合があります。その場合は10℃～20℃の室温で約1時間暖めてからご使用ください。

保守点検

◎エアーの混入はほとんどありませんが、万一エアーが混入した場合はハンドル操作が軽くなり、圧着までの操作回数が多くなります。以下の要領でエアー抜きを行なってください。

1．本体を逆さにして油タンクケースを外し給油口からキャップを抜く。
2．給油口を上にしたまま戻し弁を「戻ス」の方向に回しハンドルを数回操作し気泡を出す。
3．エアーが完全に抜けたのを確認してオイルを補給しキャップをして組み立ててください。

◎オイルは別売の「エビ印油圧オイル」をご使用ください。

◎各連結部には時々注油をしてください。

ISO9001・ISO14001 認証取得　株式会社 ロブテックス

TEL (0729) 80-1111　FAX (0729) 80-1166

営業本部・大阪	〒579-8051	東大阪市瓢箪山町9-10	TEL.(0729)80-1111	FAX.(0729)80-1166
東京営業所	〒175-0082	東京都板橋区高島平2-6-4	TEL.(03)3550-3671	FAX.(0729)80-1166
名古屋営業所	〒462-0805	名古屋市北区八竜町1-40	TEL.(052)915-0431	FAX.(0729)80-1166
福岡営業所	〒812-0015	福岡市博多区山王1-7-9	TEL.(092)431-0395	FAX.(0729)80-1166

事務所　札幌・盛岡・仙台・宇都宮・伊勢崎・千葉・横浜・静岡・金沢・京滋・兵庫・高松・岡山・広島

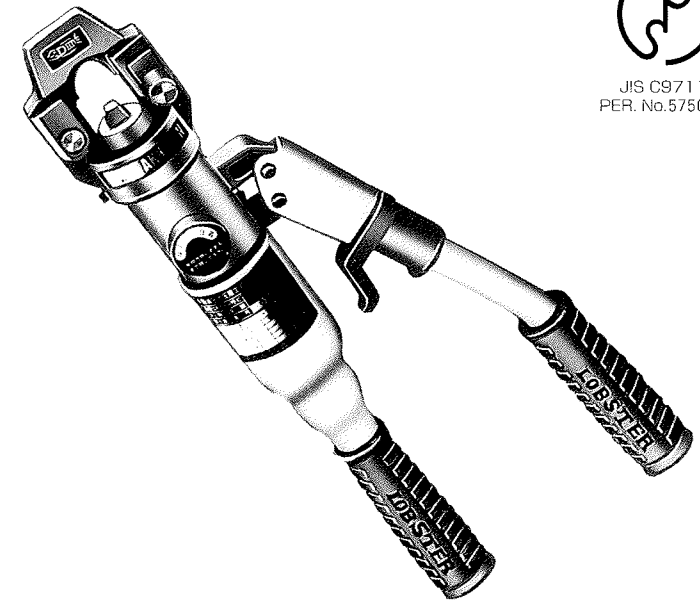
ホームページ http://www.lobtex.co.jp/

No・HPN060S00100

銅線用裸圧着端子
銅線用裸圧着スリーブ（B,P）用

手動油圧式圧着工具

AKH-60N

取扱説明書

この度は、エビ印手動油圧式圧着工具をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ご使用に際し本説明書を必ずよくお読みいただき、正しくご使用ください。お読みになった後も大切に保管してください。

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みいただき、十分理解されたうえで正しく使用してください。
◆ここに示した注意事項は ⚠警 告 ⚠注 意 に区分していますが、それぞれの意味は下記の通りです。

⚠警 告　誤った取扱をしたときに使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意

⚠注 意　誤った取扱をしたときに使用者が傷害を負う可能性が想定される場合。および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意

なお ⚠注 意 に記載した事項でも状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

◆お読みになった後はお使いになる方がいつでも見られる所に保管してください。

⚠警 告

1．活線の圧着やその付近での作業は行わないでください。感電の恐れがあります
2．適合する電線コネクタ（端子、スリーブ）と電線を使用し、正しくお使いください。圧着不良により火災の原因になる恐れがあります。
- 本機は銅線用裸圧着端子、銅線用裸圧着スリーブ（B・P）用です。
- 圧着する電線、端子（またはスリーブ）、ダイスの組み合わせは本書に記載されている「使用方法」をよく読んで正しく選んでください。
- 電線は端子（またはスリーブ）の電線抱合容量の範囲を守ってください。
- 圧着時、加圧していくとハンドルに軽いショックがあり、ピストンのマーク（黄線）が出てきます。この状態で圧着完了です。圧着が完了する前に戻し弁を戻さないでください。

3．本機は改造しないでください。火災や事故の原因となる恐れがあります。
4．高所作業の際は、ご自身に安全ベルトをして、本機や材料の落下にもご注意ください。事故やけがの恐れがあります。
5．ダイス部に触れた状態でハンドル操作しないでください。指などを挟む恐れがあります。
6．引火や爆発の恐れがある場所では使用しないでください。
7．圧着不良を未然に防ぎ圧着性能を確認するため当社まで定期点検（年に1～2回）に出してください。

⚠注 意

1．整理、整頓、清掃された場所でお使いください。
- 散らかった場所は事故を招く恐れがあります。

2．無理な姿勢で作業しないでください。
- 転倒してけがをする恐れがあります。

3．ヘッド部を人に向けて作業しないでください。
- スライドシャフトが完全に差し込まれていない場合ヘッドがはずれてけがをする恐れがあります。

4．油圧オイル、グリス等の油類はできるだけ皮膚などに触れないようにしてください。
- 皮膚などに炎症を引き起こす場合がありますので、触れた場合は身体から完全に洗い落としてください。

5．工具の手入れは注意深く行なってください。
- 握り部は常に乾いたきれいな状態とし、油やグリスがつかないようにしてください。手が滑るなどしてけがをする恐れがあります。

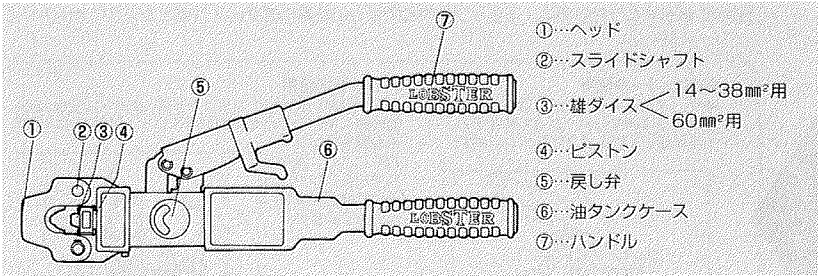
6．油断しないで十分注意して作業を行なってください。
- 本機を使用する場合は取扱方法、作業方法、周囲の状況等、十分注意して慎重に作業してください。軽率な行動をとると、事故やけがの恐れがあります。
- 常識を働かせてください。非常識な行動をとると事故やけがの恐れがあります。
- 疲れている場合は使用しないでください。事故やけがの恐れがあります。

7．ご使用前に損傷部分がないかをチェックし、損傷がある場合は修理に出してください。
- 損傷がありながら使用しますと、けがをする恐れがあります。

8．使用しない場合はきちんと保管してください。
- 乾燥した場所で、子供の手の届かない安定した所に保管してください。事故やけがの恐れがあります。
- サービスマン以外の人は修理をしないでください。修理は必ずお買い求めの販売店にお申し付けください。修理の知識や技術の無い方が修理しますと十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの恐れがあります。

仕　様

電線コネクタサイズ	14㎟～60㎟		
電線コネクタの種類	JIS C2805銅線用裸圧着端子		
	JIS C2806銅線用裸圧着スリーブの直線突き合わせ用（B）		
	JIS C2806銅線用裸圧着スリーブの直線重ね合わせ用（P）		
公称荷重	4tf	重量	2.0kg
大きさ	長さ360㎜×巾135㎜×高さ60㎜		

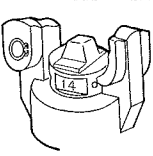
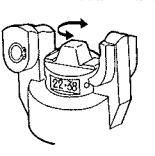
各部の名称

使用方法

1 ピストンに雄ダイスをセットしてください。
◎ヘッド（雄ダイス）は固定型ですので各サイズ兼用です。
◎雄ダイスは電線コネクタの呼び方により
14～38㎟用と60㎟用とで付け替えます。
下記のように使い分けてください。

電線コネクタと電線の組み合わせ

銅線用裸圧着端子 銅線用裸圧着スリーブ(B.P)	
呼び	電線抱合容量(㎟)
14	10.52～16.78
22	16.78～26.66
38	26.66～42.42
60	42.42～60.57

14～38㎟の場合

- 兼用ダイスですが14㎟用と22・38㎟とで使い分けます。
- 雄ダイスを90°回転させて使い分けます。ダイスに表示されたサイズが見えるようにセットします。（正しい位置でロックされた感触を確認してください。）

60㎟の場合

- 専用ダイスです。ダイスに表示されたサイズが見えるようにセットします。

2 戻し弁を「圧着」の表示方向に止まるまでしっかり回してください。

【要点】戻し弁は止まるまでしっかり回してください。
不十分ですと完全な圧着ができません。